

報告要旨

本報告では2023年度の第5研究の成果の総括を行った。2023年度の研究は主に5つのプロジェクトが活動しており、以下、その内容について述べる。1つめは、広島県東広島市の西条にある酒造集積地へのフィールドワークであり、研究成果報告は天理大学の住原教授から報告がなされた（調査メンバーは住原・藤本・三井・山内・奥野・郭）。現地では6つの酒蔵および酒造組合、国税庁・（独）酒類研究所への聞き取り調査が行われた。西条における酒造りの歴史や酒造組合の協力体制、国税局の酒造業に対する対応、蔵元、杜氏の酒造りへの努力に関する調査が実施された。2つめは、佐賀県波佐見地域における窯業のフィールドワークであり、研究成果報告は人文研嘱託研究員の池田氏、社会学研究科博士後期課程院生の郭氏から報告がなされ、社会学部の藤本教授、園田女子学園大学（当時）の三井教授から補足が行われた（調査メンバーは藤本・三井・池田・郭）。現地では2つの窯元、波佐見焼振興会、中尾山地域でのインタビューおよび生産現場の見学が行われた。3つめは、事業承継の理念に関する研究プロジェクトであり、成果報告は帝塚山大学の岩井教授から行われた。本研究では事業承継における『物語性』の重要性について、必然と偶然の組み合わせから会社の物語が生まれ、その中にこそ、その会社の独自性が表れることが述べられた。4つめは、茨城県大洗での日本杜氏協会理事長の石川氏が造る酒蔵のフィールドワークであり、大阪大学の竹内教授、三井教授から報告が行われた。現地では、1月という造りの最中でありながら、蒸米、麴室、醪造りなどの作業を傍で見学することを許された。本調査から石川杜氏は、これまでの常識を打ち破る温故知新の酒造りをしていることが明らかになった（調査メンバーは藤本・三井・竹内）。5つめは、日中韓の事業承継における比較研究の成果報告であり、立命館大学の寶講師、帝塚山大学の河口教授、就実大学の洪講師によって「東アジアの家族企業と事業承継」というテーマで報告がなされた。講師陣から家族企業の事業継承という複雑構造に対する独自の研究枠組み、東アジア諸社会（具体的には日本・中国・台湾・香港・韓国）での10年以上にわたるフィールドワークの成果から抽出した8つの企業の事例が紹介された。本研究成果は著書として出版されており、2023年度の商工総合研究所・中小企業研究奨励賞 経済部門・準賞受賞を授与された。